



新・みやぎ・シー・メール第21号

発行：令和元年5月21日

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

ツノナシオキアミについて

環境資源チーム

ツノナシオキアミはイサダとも呼ばれ、エビに似ていますがエビとは少し違う仲間です（図1）（さらにややこしいことに、アミという生物もありますがこれも違う仲間です！）。

あまり馴染みのない生物かもしれませんが、「クリル」と言えば熱帯魚を飼っている人はピンと来るのではないのでしょうか？釣餌や養殖魚の餌として、魚体の色をよくするなどとして珍重されています。風味を保って保存するのが難しかったため、あまり人間の食用としては使われてきませんでした。栄養豊富でうま味成分も多いことから、近年では発酵調味料などに加工する動きも出てきています。



図1 水揚げされたオキアミ

・オキアミ漁について

宮城県近海の海況は、黒潮と親潮という二つの海流の影響を受けて大きく変動します。4月ごろは親潮系冷水がもっとも南下してくる時期ですが、ツノナシオキアミはこの頃、冷水の縁に集まって群れを作るといった習性があります。そこを狙って一網打尽にするのがオキアミ漁です。

オキアミ漁は女川で始まり、1950年代以降宮城県全域に広がりました。当初の漁具はすくい網で、海面付近に浮上してくる群れだけを漁獲するものだったため、現在以上に海況の影響を受けやすい漁業でしたが、1992年に船曳網が解禁されて深い層の群れが漁獲できるようになり、漁獲量が安定するようになりました。この頃、岩手・宮城・福島・茨城四県の申し合わせにより漁獲量の総量規制をすることになり、2010年までの漁獲量はおおむね規制値と一致します。しかし近年は漁獲量が規制値に届かない傾向にあります（図2）。

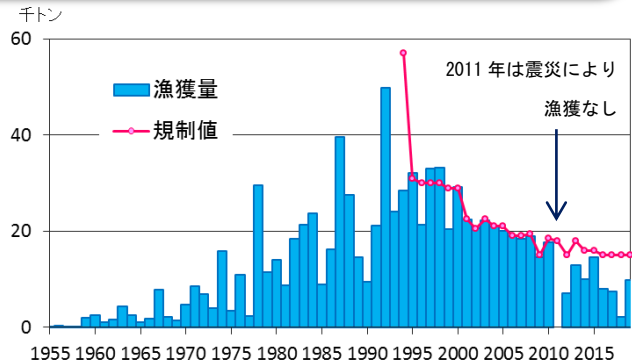


図2 宮城県オキアミ漁獲量の推移

深い層の漁獲が可能になったとはいえ、オキアミ漁業が海況の影響を強く受ける漁業であることには変わりはありません。親潮の南下の形は年ごとに大きく異なり、漁場のできる場所も変化するからです。2018年は宮城県沖まで親潮が南下せず記録的な不漁でしたが、2019年は一転。岸近くに親潮が南下し好漁となりましたが、単価安と生産調整のため4月下旬で終漁しました（図3）。漁獲量は9,816ト、前年2,249トの4倍となりました。

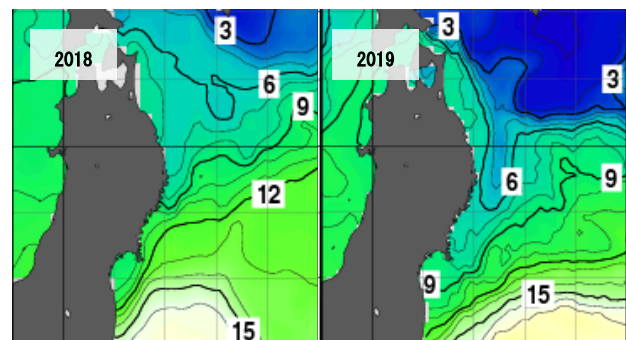


図3 近年の4月上旬表面水温（気象庁HPより）

ツノナシオキアミの漁獲は海洋環境に大きく左右され、非常に「つかみどころのない」印象です。南下した親潮のどのあたりに漁場ができるかピンポイントで予測することは非常に難しいため、当センターでは漁期が近づくと魚群探知機による調査を行い、春漁情報として公開しています。オキアミはまさしく、気まぐれな春の妖精なのです。

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>